

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年5月8日(月)

【雑感】責任が人を育てる

本校は主体性、協働性、創造性を視点として学校づくりを行っています。子供達は「自分の理想から」気づき、考え、行動する。「自己意識を促して活動を促しています。子供達の行動が主体的であるからこそ、その美りも大きいです。

ある本を読んだら、こんなフレーズがありました。「職業はその道に入った人間をそのまじりに造っていく。そのまじりだ。」なるほど、責任を与えることで人間は変わっていくのです。子供達は、課題を自分のもの(主体性)で仕事意識(と捉え、やりがい(自己有用感)を感じ、結果や成果を自覚し、仲間力を活かして(協働性)抱負意識(頑張っている)です。私達人人もそうですね。与えられた責任を、それを果たそうと必死で努力して、何とか結果を出していくのです。私もこれまで、上司の命令に対して、間違っていないかと感じた時は必ず自分の考えを伝えていました。しかし、納得がいかない場合もあります。「はい。」の返事から肝を銘じていました。そして結果を出して努力しています。お蔭様でしょうか、その様なことの積み重ねが今の自分を作ってくれたのかなと思います。仕事がとれただけ増えるも何かがあるものですね。タイムマネジメントは必ず上手になった方がな気がします。

子供達は私達人間の姿を見て成長していきます。子供たちに押しつけかしくいふと、責任を果たせているか自戒の必要があります。

本校において、低学年の子供達が責任を果たす高学年に憧れ、自分もそのあたりにしたい、という風潮が続いていくことを願っています。

【雑感】人の失敗を笑う人は...

これまでの教職における経験を活かして、「人の失敗を笑う者は自分の善や目標を達成するに近づかない。」と言っている人が、多くの場面でうなづいていました。理由がいろいろあります。

ある子供が「生懸命に課題に取り組んでいて思わず失敗してしまいました。通常は「アタマ、次頑張ろう」とか「大丈夫、君なら出来るよ」と励まして言葉を掛けることが多い。しかし、たまたま失敗を笑い、馬鹿にする人がいる。そういう子は当然笑われた馬鹿にならざるを得ない。失敗はしない。なぜ失敗しないのか、それは失敗しないように挑んでいないからだ。挑んでいないから失敗しない。だから、人が挑戦して失敗する姿を見てもらいに共感があるから笑います。馬鹿にする。当然のことながら、それは何の学びも無く、成長もなし。つまり、嫌なことがある逃げたばかりで、立ち止まる壁に挑んでいへないチャレンジャー精神がないのだ。低学年の間はまだ目立たないが、いつか高学年になると孤立してしまったり多いように感じます。仲間を作りたいのだが、精神的な成熟がなくて「挑戦する甲」の大切さとか「生懸命のことが面白く」努力の継続の大切さ」に気がつき始める。失敗を笑う「いじめ」の側面から自分を遠ざけていくような現状があります。

思春期の入り口にある子供達にとって、精神的に大人になるための「背伸び」をする必要があるので、当然のことながら、心身の未熟さから失敗するものが多いものだ。でもそれを繰り返してから精神的に成長し、人の心にも寄り添ってあげられるようになる。多様な他者と協働して自分の夢や目標を達成していくのです。

回復も言いますが、挑戦しない者も失敗もしないし成長もありません。挑戦の意欲も回復も失敗を繰り返して失敗の中から次の挑戦に活かしていかないとダメです。その繰り返してを言葉で「課題」して課題に繰り返していかないと、最終的に目標を達成できない。

シリーズ「自分を語る」#008

さて、次はヘルからの研修員受け入れに行きましょう。この研修員の希望は「観光」です。ヘルといえは「マチュピチュ、インカ帝国」など、ナカ力地上絵、ティティカカ湖、等が浮かびます。観光資源が多い国ですね。しかし、その資源を活かすことができないのは国の持ち腐れです。そこで、日本の観光のシステムを学びに来られたという訳です。この研修員の名前は「上村エリカさん」です。名前から想像できますね。日系人です。移民によってお母様がヘルに渡り、現地の方と結婚されたことでした。エリカさんの研修先は「九州産業交通」です。以前、研修員を受け入れて経験があったので、スムーズな研修が可能でした。明るく元気な方だったので、とても研修が楽しかったです。

次は中国からの研修員受け入れです。中国からは「劉(リウ)さん」です。研修希望分野は医療分野でした。外傳による言語障害、聴覚障害等の理学療法です。日本では理学療法(リハビリテーション)については理学療法士が行いますが、中国では医師が行っています。詳しくは分かりませんが、劉さんは医師として働いていました。劉さんの研修受け入れ先は「熊本機能病院」です。前年度に中国からの整形外科医を受け入れていた関係で、劉さんもスムーズな研修をスタートすることができました。ただ、研修そのものは大変だったようです。日本語がよめ分らないのに言語障害の理学療法を研修するのですからね。彼女は自転車から渡鹿から機能病院へ通うことになりました。

海外技術研修員最後の一人は、フジの歯科医「田坂幸志さん」です。名前から想像できる通り、日系二世です。彼はフジの熊本県人会に所属し、日本語で日常会話なら問題なく話していましたので、面接もスムーズに終えることができました。研修先は、熊本県歯科医師会です。敵地は歯科医師会から幾つかの歯科医に派遣されるのです。その代表が「伊東 幸志」です。幸志さんは歯科医というより、口腔外科医と聞いた方が良いでしょう。歯だけでなく、顎、顎関節、顎骨にまで専門門です。後に研修先訪問で知っていますが、顎関節不整音という噛み合わせが極端に悪い場合、顎の骨を切って調整するものも口腔外科医の仕事です。正に外科並みの手術室が完備されていて、私はもう小学生の見学旅行のノリで視察したいと思っています。

このように、全員を受け入れ手続きは済みました。これでもだめでしたら面談はありますね。受け入れが決定すれば、熊本での宿舎を決めなければなりません。この宿舎決定にも曲折が使われますので、条件を満たした上で最良を、利便性も考え決定しなければなりません。そして、数社から研修書を取り、県庁からも各研修先からも近江宿舎が決定される。あとは研修員が来日の際の準備は完了です。(つづく)